

年 組 名 前 :



甲州種ワインを熟成させているたが
並ぶワイナリー
＝甲州市勝沼町下岩崎 (2018年撮影)

順位	都道府県	ワイナリー数	日本ワイン製成数量(千樽)
1	山梨	85	5503
2	長野	55	3599
3	北海道	42	3294
4	山形	17	1370
5	岩手	11	585
6	新潟	10	514
	全国合計	369	1万7775

※国税庁の酒類製造業及び酒類卸売業の概況(2020年度調査分)から作成

みなさんの身近にいる大人はワインを飲みますか？このワインを製造するワイナリーの数が「日本ワイン」の製造量が、山梨県は全国一です。

国税庁が酒類業の実態を調べるために行っているアンケート調査の結果をまとめた「酒類製造業及び酒類卸売業の概況(2020年度調査分)」を見

てみましょう。ワイン製造業の項目中、都道府県別のワイナリー数の表に注目すると、山梨県が85で、2位と多いことが分かります。3位は長野県の55、4位は北海道の42です。全国にある369ワイナリーのうち山梨は23%を占め、上位3道県で全体のおよそ半数を占めています。国内のワイナリーは、国

「日本ワイン」製造量1位

産ブドウのみを原料にした「日本ワイン」のほか、輸入原料を使ったワイン製造も手掛けています。都道府県別の「日本ワイン」の製成量を見てみましょう。この調査に解答した分しか分かりませんが、山梨が5503千樽で最多。長野(3599千樽)、北海道(3294千樽)と、ワイナリーの数と同様の順位になりました。3道県の日本ワインの製成量で国内全体(1万7775千樽)の7割を占めます。赤・白ワインに用いられる品種ごとに調べてみました。山梨県では「甲州」種として、山梨県の特産、日本固有の品種「甲州」

が使用されることが多く、ワインの原料としての受け入れ量は3198ト。2位に多い鳥根県(116ト)の約10分の1です。赤ワイン用の品種は「マスカット・ベリーA」が1773トで、こちらも最多。2番目に多い山形県(634ト)の2倍以上です。

ワイナリーを立ち上げてきた先人、品種ごとの特徴、新興産地の登場！小中学生のみなさんはまだワインを飲むことはできませんが、その奥深さを味わえるポイントはいくつもあるので、ぜひ調べてみてください。

※次回(2月24日)掲載します

(2022年1月27日付 山梨日日新聞 週刊こぴっと3面)

問1 「日本ワイン」とはどういうワインのことですか。文中から15字前後で抜き書きしてください。

問2 2020年度調査によると、山梨県は、ワインを製造するワイナリー数や、「日本ワイン」の製造量がダントツで全国一です。山梨に続く2位～5位の道県を順位表を参考にして書いてください。

2位 →「 」 3位 →「 」 4位 →「 」 5位 →「 」

問3 その年に収穫しブドウを醸造した新酒ワインを何というか調べ、正しいものに○を付けてください。

「 」スパークリングワイン 「 」ロゼワイン 「 」ヌーボーワイン

「 」一升瓶ワイン